

成績評価	<p>PBLの成績評価は、成果、SA、週報、活動実績、年間活動報告書等を参照し、PBLの活動及び成果に対する関与度及び貢献度による評価（各30点、合計60点満点）と、コンピテンシースコアシートによる教員評価と相互評価に基づくコンピテンシー獲得度の評価（40点満点）から総合的に評価する。</p> <p>最終評価は、主担当教員と、2人の副担当教員で成績案を作成し、全教員によるPBL成績判定会議で審議し確定する。</p> <p>前者はPBL活動を評価するもので、後者は獲得したコンピテンシーという汎用能力の評価を行うものである。詳細は「PBLプロジェクト説明書」を参照のこと。</p> <p>なお、プロジェクトは1年間通して行うが、成績・単位は半期（前期・後期）ごとに付ける。</p>		
教科書・教材	別途配布する「PBLプロジェクト説明書」を参照のこと。		
参考図書	別途配布する「PBLプロジェクト説明書」を参照のこと。		
獲得可能なコンピテンシー	獲得可能度合 (◎ ○ △ -)	獲得可能な内容	
メ タ	コミュニケーション能力	◎	
	継続的学修と研究の能力	◎	
	チーム活動	◎	
コ ア	発想力	◎	
	表現力	◎	
	設計力	◎	
	開発力	◎	
	分析力	◎	

5.5 学生ガイダンス資料

「事業アーキテクト」コース

2015/04/11土曜 18:15-

事業アーキテクト

▶ 次世代成長産業分野での事業開発・事業改革のための高度人材養成プログラム（「**事業アーキテクト**」養成）

- ・「**戦略+技術**」を学ぶ新しい教育プログラム（両専攻横断型）
- ・成長分野（観光・医療・物販等）で、IT・製品開発・マネジメントを活用し、生産性・付加価値を高めるための**事業開発**を学ぶ。
- ・**戦略**: 経営、マーケティング、リーダーシップ、スタートアップ等
- ・**技術**: IT、デザイン、製品開発、マネジメント等
- ・**事例研究**: ケースメソッド等
- ・**PBL**: プロジェクト実践
- ・対象分野の業務知識・現状・課題
- ・メソッド・ツール、法規・倫理等

平成27年度から学生を募集します
定員10名（仮）



教育プログラム

- ・平成27年度から「事業アーキテクト」コースを新設する。
 - ・当事業で開発した教育プログラムの試行運用
 - ・定員10名程度（各専攻5名程度）
 - ・情報アーキテクト専攻（定員50名）、創造技術専攻（定員50名）
 - ・コース決定
 - ・PBL型科目の履修
 - ▶ 新しい「事業アーキテクト」コースか、従来の各専攻のコース（システムアーキテクト、テクニカルスペシャリスト等）を決める。
 - ・履修条件
 - ▶ 事業アーキテクト専攻科目群の8科目から10単位以上取得
 - ▶ 講義・演習型科目（経営戦略特論等）、事例研究型科目
 - ・既存科目
 - ・各専攻で学位を出すため、既存の各専攻の専門科目から16単位以上取得する必要あり。

4

次世代成長分野

- ・現在、生産性・付加価値の改革、産業の新陳代謝が期待されている、観光・物販・医療等の第三次産業等
 - ・〈規模〉持続的成長（1997年から2012年の15年間）
 - ・GDP比率: 第三次産業 68.3% → 74.9%、第二次産業 30.0% → 23.9%（内閣府「国民経済計算」）
 - ・就業者比率: 第三次産業 61.9% → 71.4%（総務省「労働力調査」）
 - ・現在まで日本の経済を牽引してきた製造業等の第二次産業に代わって、今後の経済成長での次世代成長分野として期待されている。
 - ・〈問題〉生産性・付加価値の低さ
 - ・日本の非製造業（第一次産業及び第三次産業）の生産性（TFP: Total Factor Productivity）は特に低い。1970年から2007年の約40年間で製造業のTFPは約2.9倍であるのに対し、非製造業のTFPは約1.3倍に留まっている（経済産業研究所BBL『「失われた20年」と日本経済』）。
 - ・〈改革〉
 - ・徹底した業務マネジメントとIT技術の活用（製造業のTFPの上昇の1要因）
 - ・産業の新陳代謝、イノベーション、破壊的技術等



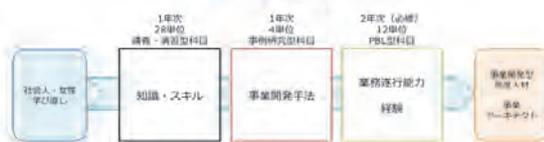


事業アーキテクト

- 従来仕組みを改革し、当該成長産業分野の加速的成長を実現する
 - マネジメントとIT技術等の破壊的技術を駆使し、イノベーションを誘発し、産業の新陳代謝を引き起こすべく、事業開発を効率・効果的に実行し、生産性・付加価値を高める。
 - 事業開発として、実際に描いた戦略を自ら事業の構築、運用までを実現できる。
- 《修得する知識・スキル等》
 - 戦略（経営、マーケティング、リーダーシップ、スタートアップ等）
 - 技術（IT、製品開発、デザイン、マネジメント等）
 - 当該分野の業務知識、現状・課題
 - 各種のメソッド及びITツール（課題管理、CRM、コラボレーション等）
 - 法規・倫理
 - 事例研究及びPBL（Project Based Learning）

9

教育内容



- 1年次 講義・演習型科目 24単位以上
 - 事業アーキテクトに必要とされる知識・スキルの修得・定着
- 1年次 事例研究型科目 4単位
 - 事業開発手法の修得
- 2年次 PBL型科目（必修） 12単位
 - 成長領域の現状から問題を特定し、現実の課題に対する問題解決、事業開発のプロジェクトの実行

10

科目一覧 1/4

- 《新規 講義・演習型科目》事業アーキテクトチャ科目群
 - 経営戦略特論
 - スタートアップ戦略特論
 - マーケティング特論
 - リーダーシップ特別講義
 - ITソリューション特論
 - 事業アーキテクト特論（次世代成長産業）
- 《新規 事例研究型科目》事業アーキテクトチャ科目群
 - 事業アーキテクトチャ研究（事例研究）
 - 事業アーキテクトチャ設計（事業設計）

11

科目一覧 2/4

- 《新規 PBL型科目》
 - 事業アーキテクトチャ特別演習1
 - 事業アーキテクトチャ特別演習2
- 《既存 倫理》共通必修科目群
 - 技術倫理
 - 情報技術者倫理
- 《既存 国際》専門科目群
 - 国際経営特論
 - 国際開発特論

12

科目一覧 3/4

- 《既存 情報アーキテクトチャ専攻》専門科目群
 - 情報ビジネス特別講義4（事業戦略）
 - 情報システム特論2（業務改革）
 - 情報アーキテクト特論2（事業提案）
 - 情報ビジネス特別講義2（会計・財務）
 - 情報ビジネス特別講義3（組織）
 - IT特論
 - プロジェクト管理特別講義
 - プロジェクト管理特論1
 - eビジネス特論
 - サービスサイエンス特論
 - 情報インタフェースデザイン特論
 - clo特論
 - 情報ビジネス特別講義1（法規）
 - 標準化と知的財産

13

科目一覧 4/4

- ・ 〈既存: 創造技術専攻〉 専門科目群
 - ・ ものづくりアーキテクト概論
 - ・ グローバルコミュニケーション特論
 - ・ 人間中心デザイン特論
 - ・ デザインマネジメント特論
 - ・ デザインシステム計画特論
 - ・ 創造設計特論
 - ・ 技術経営特論
 - ・ イノベーション戦略特論
 - ・ プロトタイピング工学特論 (3Dプリンタ)

14

修了要件

科目群	種別			2科目から選択
	必修	選択必修	必修	
共通必修科目群 (倫理科目)	—	2単位	—	
事業アーキテクト科目群 (新設)	—	10単位	—	講義・演習型科目 (経営戦略特論等)、事例研究型科目の8科目から選択 (PBL型科目の履修前に単位取得する必要がある)
専門科目群 (既設)	—	—	16単位	情報アーキテクト専攻または創造技術専攻の既存の専門科目から選択
事業アーキテクト特別演習	12単位	—	—	PBL型科目 (2年次)

- ・ 2年以上在学し、定められた授業科目を40単位以上修得すること (修了要件の40単位の総授業時間数は690時間 (30時間×14科目+135×2科目)、総時間は1,800時間以上)

15

新設科目 (講義・演習型)

- ・ 戦略・経営に関する最低限の知識の修得
 - ・ 経営戦略特論
 - ・ 経営戦略の基本体系、経営思想、経営計画、事業戦略構築、組織等
 - ・ スタートアップ戦略特論
 - ・ 起業・新規事業の事業計画、資金調達、資源管理、ブランディング等
 - ・ マーケティング特論
 - ・ マーケティングの理論・応用・戦略・戦術、顧客価値等
 - ・ リーダーシップ特別講義
 - ・ リーダーの志、価値観、機能 (指示、盛り上げ、仕組み等)、事例等
 - ・ ITソリューション特論
 - ・ 課題管理、ERP、BPM、CRM、コラボレーション等、ベストプラクティスとしてのパッケージソフトウェアの活用
- 事業アーキテクト7科目群 → 事例研究型新設

16

新設科目 (事例研究型等)

- ・ 事業開発・問題解決に関するメソッドの修得・経験
 - ・ 事業アーキテクト特論
 - ・ 次世代成長産業の各産業の現状、課題、効率等の理解 (俯瞰)
 - ・ 観光・医療・物販・農業・スポーツ・航空産業等の7産業分野
 - ・ 事業アーキテクト研究 (事例研究) 集中講義
 - ・ 既存の業務改革の成功・失敗事例の研究
 - ・ 事業アーキテクト設計 (事業設計) 集中講義
 - ・ 既存の問題に対する業務改革の提案・設計 (アイディアソン)
 - ・ グループに分け (4名前後×3組)、複数の課題を繰り返し (3回) を解く。
 - ・ 事業アーキテクト特別演習1及び2 (PBL型科目)
 - ・ 事業の提案・設計から、実際に開発・検証を行う。

17

在学生 (H26年度10月以前の入学)

- ・ 新設科目の履修
 - ・ 今回事業アーキテクトコースのために新設した事業アーキテクト科目群 (経営戦略特論、事業アーキテクト設計等) の履修は可能か、また修了要件の単位であるか。
 - ・ 対処案 → 履修可、計10単位まで修了要件にカウントできる。
- ・ 長期履修、休学等でPBL型科目が未履修であるが、
 - ・ 事業アーキテクト特別演習 (PBL型科目) の履修は可能か、また修了要件の単位であるか。
 - ・ 対処案 → 推奨科目の条件を満たしていれば履修可、修了要件にカウントできる。ただし、既存のPBL型科目との重複は出来無い。

18

履修の手引

情報アーキテクト専攻	創造技術専攻	補足
〈倫理〉 共通必修科目群 2単位以上		修了条件
事業アーキテクト科目群 10単位以上 経営・戦略 事業開発・問題解決		①の履修条件 以下は履修することが望ましい。 - 事業アーキテクト特論 - 事業アーキテクト研究 - 事業アーキテクト設計
〈情報アーキテクト専攻〉 専門科目群 p.12 情報システム特論2等 14科目	〈創造技術専攻〉 専門科目群 p.13 技術経営特論等 9科目	16 単 位 以 上 履修することが望ましい。
〈国際〉 専門科目群		
〈情報アーキテクト専攻〉 専門科目群 p.12以外	〈創造技術専攻〉 専門科目群 p.13以外	
事業アーキテクト特別演習 12単位		修了条件

19